



佐藤雅俊

さとう・まさとし

株式会社ブレインマークス ビジネスコンサルタント

過去10年で500社を超える人材採用・活性化コンサルティングを経験。社内活性化による採用の歩留まり改善提案など、企業発展につながる根本的な支援を得意としていた。その経験からマイケルEカバーのメンツのなかでも「社長の描いたビジョン実現を楽しむ組織づくり」をとくに得意としている。クライアントに徹底的に寄り添うスタイルの姿勢が「コンサルタントらしくない」と高評価。

佐藤 那がやるなら保証人にならねばならない。それで事務所を設立することができたのです。

佐藤 起業後はどのように独立して事業を取り組んできましたか。

今野 つねに「直球勝負」を心がけ、営業先では「何か問題はありませんか」と御用聞きをしたり回りました。それでとにかく難しくて手間がかかる仕事を引き受けたことにしたのです。

佐藤 いざ独立するとなったらいろいろなリスクを背負うわけですから、決断には1年ほど時間がかかりました。資金もなくパソコンをリースする審査も下りないと、いわば死んでしまう。そうしたなか、それまで取引先だったソフト会社の社長が

佐藤 それからよいと起業したわけです。

佐藤 今野さんが独立するなら保証人にならねばならない。それで事務所を設立することができたのです。

佐藤 起業後はどのように独立して事業を取り組んできましたか。

今野 つねに「直球勝負」を心がけ、営業先では「何か問題はありませんか」と御用聞きをして回りました。それでとにかく難しくて手間がかかる仕事を引き受けたことにしたのです。

佐藤 いざ独立するとなったらいろいろなリスクを背負うわけですから、決断には1年ほど時間がかかりました。資金もなくパソコンをリースする審査も下りないと、いわば死んでしまう。そうしたなか、それまで取引先だったソフト会社の社長が



今野広行

こんの・ひろゆき

株式会社フォルテック
一級建築士事務所
代表取締役社長

建設会社に就職し、建設現場での業務に従事。二级建築士の資格取得を機に構造設計事務所に転職。12年間勤務した後に独立し、1996年にフォルテック一級建築士事務所を設立。問題解決、人に面と向かうことを信条に構造設計事務所を経営するかたわら社会人講師としても人気を持っています。



佐藤雅俊・ブレインマークスビルネスコンサルタント 建築の道にすすもうと思つた経験からお話しください。

今野広行・フォルテック一級建築士事務所代表取締役社長 私は秋田県の生まれで、父親が工場店、母親が美容院を経営していました。両親の背中を見ながら、中学生のときから漠然と「自分もいつか独立して事業を興そう」と思っていました。とくに憧れていたのは建築の世界です。工事現場でヘルメットを

10年後をリードする未来企業

76

「構造設計」という裏方ビジネスではより人を大切にする経営改革が求められる

建築において全体的な構成や骨組みから細部構造までの諸条件を把握したうえで、建物の安全性や要求性能を満たすための設計を行う「構造設計」という分野がある。

フォルテック一級建築士事務所はこの構造設計で、木質構造、鉄骨造、RC造など幅広い実績を持つ。そんな同社の今野広行社長の夢と思いに株式会社の佐藤雅俊氏がアプローチした。



オフィス外観



オフィス内観

まに迷惑をかけてしまった。調理で精魂つきはてとうにならなかったこともありました。それに起業から10年間はほぼひとりで業務をマネジメントしていたので、仕事が増えると自分が手が回らなくなっていました。そこで、手が増えると自分だけでは手が回らなくなっていました。

佐藤 そういう状況になるとモチベーションも低下してしまいますね。

今野 休みなく働きづけると、出合い、どのよつたに気がつきませんか。

今野 「理念づくり」や「仕組みづくり」の重要性に気づき、起業してから一貫して「難

しい案件を積極的に引き受け、アイデアをどんどん出していく」というスタンスを、自信を持って事務所の基本方針に掲げるこ

とができます。

また、建築のなかでも構造設計といふ分野は人の目に触れないことが多い。だから経営がうまくいかないことを実感するようになります。

佐藤 まさに今、その改革に取り組んでいる最中というわけですね。

今野 そのとおりです。事務所の生まれ変わりの時期だと思っていました。まだまだ乗り越えなければならぬ壁はたくさんあります。

佐藤 今後どのような事務所に

彼が仕事をするのが男の仕事だと思っていたら、工事専門校建築科でも建築の教科がもつともおもしろく、得意だったのだ。この道にすむことにしました。

そして、高校卒業後はすぐに実家を出て東京都内の建設会社に就職し、四疊半一間のアパートを借りて生活をはじめました。

当時の月給は7万8000円でしたね。上京した当初はどのような生活を送っていたのですか。

今野 建築の仕事に慣れていた反面、現場では掃除や職人の手

伝いしか任せてももらえませんでした。そのため、今ひとつ仕事に身が入らず、遠距離を愛中の彼女のことばかり考えていま

たが、2年間くらいで別れてしましました。振り返ってみると、「男は20歳から勝負よ」という言葉にインスピレーションを得たのです。そして、22歳のときには憧れを抱きはじめていた構造設計事務所に縁あつて転職して、本格的に設計の仕事に携わるようになつたのです。はじめにやりたかった仕事ができ、とにかくおもしろかったです。それでも、今でも当時の意匠設計事務所の先生方とのやりとりは非常に覚えていています。その事務所では12年間働きました。

—10年後のためのアドバイス!—

熱い人柄で、ざっくばらんな話をしてくれる今野社長。工業高校時代は建築の教科においてつねにトップの成績をキープし、資格取得の勉強も寝る間を惜しんで取り組んでいたそうです。構造設計という一般にはなじみのない黒子的な仕事におもしろさを見出し、情熱を傾けているのはフォルテックの強みであり、今後事業を成長させていくための大切なポイントになると思います。建築業界全体をみると、技術革新が進展する一方、人手不足の問題がさらに深刻化しており、構造設計の分野でも優秀な人材をいかに確保・育成していくかが課題となっています。働き方改革の流れのなかで、従業員一人ひとりのやりがいや個性を伸ばしていく具体的な仕組みを構築することが大切になるでしょう。

佐藤 全野社長の考え方・情熱を形にするために、私たちも最善をつくして支援させていただきたいです。

